

令和6年度 自己評価及び学校関係者評価書

34002

本年度の重点目標 『自らの未来を切り拓く力を育む教育の創造』

令和7年3月13日

- 生徒一人一人の社会を生き抜く力、社会に活かす力を育む教育の推進 ○ 学校組織の協働的な運営に基づく、教職員の自発的で創造的な教育活動の展開
○ 生徒の学びと育ちの姿を進んで発信し、保護者・地域に開かれた学校の創造

札幌市立白石中学校

本年度の経営・運営方針【Plan】 「登校するのが楽しいと思える学校を目指して」 ～笑顔と笑い声があふれる学校づくり～	教職員アンケート (n=27)			生徒アンケート (n1年=134 , n2年=135, n3年=104)			保護者アンケート (n=201)			自己評価【Check】		学校関係者評価		
	項目	評価	平均	項目	学年	評価	平均	項目	評価	平均	達成状況	分析と改善の方策【Action】	の自己適切さ評価	改善策の適切さ
(1) 人間尊重の教育～心豊かにしなやかに生きようとする態度を育む 子ども一人一人が「自分が大切にされている」と実感できる学校づくり～同僚性を発揮し、教職員自らが相互承認の感度を高め、成就感と笑顔あふれる職員室～	①重点目標や経営方針をもとに連帯と協働を意識し、生徒の学びと育ちに喜びとやりがいを感じている。	B	3.89	⑧みなさんが成長する姿を見て、先生方はやりがいを感じていると思う。	1年 2年 3年	B B A	3.78 3.80 4.06	⑩学校の教職員は、お子さまが成長する姿を見て、やりがいや喜びを感じていると思う。	B	3.95	B	子どもたちの成長と教職員のやりがいは、相互に良い影響を与え合い、教育活動の充実に繋がるものである。子どもと教職員の関係が良好なものとなるよう一層のコミュニケーションの充実を図っていく。 また、教職員の働き方改革の目的は、教師のこれまでの働き方を見直し、日々の生活の質や教職人生を豊かにすることで、子どもたちに対して効果的な教育活動を行うことができるようになることである。今後も一層働きやすい職場づくりに向けた取組を進める。	A	A
	②職場内でコミュニケーションを図っている。	A	4.33											
	③働き方改革を意識した教育活動を行っている。	B	3.44											
(2) 「学ぶ力」の育成～「課題探究的な学習」と「自治的な活動」を二本柱とした「本物の経験」 相互承認の感度を高める多様な学び、協動的な学び～「直接体験の場」「自己決定の場」「失敗から学べる場」「『何のために』を考える場」「学びの見通しをもつ場」「相互理解を生み出す対話の場」の創出～	④基礎・基本の定着に向けて、授業の工夫・改善に努めている。	B	3.96	⑤意欲的に学習に取り組んでいる。	1年 2年 3年	B B B	3.22 3.21 3.55	④お子様は意欲的に学習に取り組むようになってきていると感じる。	B	3.45	B	子どもたちが学習の見通しをもち、振り返りをしっかり行うことができるような授業改善を継続して行う。 Chromebook(一人一台端末)を用いた学習については、今後も積極的に活用を進める。 今年度は学校祭と合唱コンクールを一つに合わせた文化祭として実施することができ、その取組を通して人間関係の深まりを実感することや、達成感・成就感を味わうことにおいて成果があった。また、学級活動や部活動等の活動を通して、充実した学校生活を送ることができている子どもの割合が高く、引き続き「登校するのが楽しいと思える学校」を目指していく。	A	A
	⑤ICTを活用した教育の推進を図っている。	B	3.89	⑥Chromebookを活用した学習を必要に応じて行っている。	1年 2年 3年	A A A	4.17 4.05 4.25	⑤お子様はChromebookを活用した学習を必要に応じて行っている。	B	3.48				
	⑥生徒にとって魅力ある学校生活を送れるよう努めているか(学級活動、学校行事、生徒会活動、部活動など)	A	4.04	⑦白石中学校での生活は楽しく、充実している。(学級活動、学校行事、生徒会活動、部活動など)	1年 2年 3年	A A A	4.21 4.18 4.17	⑥お子様は学校生活を楽しく、充実したものにてできている。(学級活動、学校行事、生徒会活動、部活動など)	A	4.07				
(3) 「豊かな心」・「健やかな体」の育成～生徒支援と生徒活動の一体化 チーム白石で組織対応！ ～子ども自身が自らを変容できる力の育成、未然防止と初期対応の重視～	⑦生徒の体力・運動能力を維持向上できるよう、スポーツに親しみ、運動習慣づくりに取り組めるような支援・指導の充実に努めている。	B	3.89	①健康のために、食事や睡眠に気を付けて生活している。	1年 2年 3年	B B B	3.51 3.40 3.69	①お子様は食事のバランスや睡眠時間を気を付けて生活している。	B	3.57	B	子どもたちの「思いやりをもって、仲間を大切にする心情」はしっかりと育まれていると捉えられる。また、昨年度と比較し、気軽に教職員に相談する子どもが増えている。今後もアンケートの実施や日常的な観察を通して、適切な子どもの実態把握に努め、困り感を積極的に捉えていくよう心掛ける。併せて、いつでも気軽に相談できる関係と環境づくりに引き続き取り組む。 子どもの実態に合わせた支援については、個々の子どもも理解に基づく適切なものとなるよう努める。	A	A
	⑧命を大切にする指導、思いやりの心を育む指導を計画的に行っている。	A	4.04	②仲間との関係を大切にし、思いやりをもって生活している。	1年 2年 3年	A A A	4.37 4.23 4.43	②お子様は自他の命を大切にし、思いやりをもって生活している。	B	3.84				
	⑨子どもの問題行動や悩みの早期発見と予防対策を目的に適切な相談、支援を行っている。	A	4.15	③気軽に先生方に相談することができる。	1年 2年 3年	B B B	3.01 3.38 3.61	③お子様は安心して学校に通っている。	A	4.19				
(4) 信頼される学校の創造 開かれた学校づくり ～見てもらい知ってもらい、より確かな信頼関係を築く～	⑩特別な配慮を必要とする生徒への支援の充実を図っている。	A	4.04					⑦学校はお子様の実態に合わせた支援を適切に行っている。	B	3.90	B	コロナ禍と比較し、保護者や地域の方が来校する機会は増え、新入生保護者説明会や学年PTA等を活用し、学校の教育方針や子どもたちの様子などを伝えてきた。開かれた学校を目指し、より一層、保護者の理解が得られるように丁寧な情報発信に努めていく。 本校の小中一貫した教育におけるパートナー校は、南郷小学校と南白石小学校である。合唱コンクールの参観、小学生と中学生の交流、小中相互の教師による情報交流を行った。各学校の教職員が一丸となって白石中学校区の子どもたちを育むために、より一層、有機的な関わりをもつように努める。	A	A
	⑪保護者や地域に重点目標や経営方針をわかりやすく伝え、目標を共有している。	B	3.52					⑧学校は学年PTAなどを通して、教育の重点目標や方針をわかりやすく家庭に伝えている。	B	3.91				
	⑫保護者や地域に積極的に学校の取組を公開し、情報発信をしている。	B	3.78	④学校からの配布物(「おたより」など)をきちんと保護者に渡している。	1年 2年 3年	B B B	3.44 3.54 3.63	⑨学校は配布物(各種お便りなど)やホームページ、すぐるで学校の様子や情報を積極的に伝えている。	A	4.24				
	⑬小中一貫した教育の推進を図っている。	B	3.63								B			
	⑭関係機関、地域との連携を計画的に推進している。	B	3.67											

今年度の実践【Do】

※ 5:よく当てはまる 4:やや当てはまる 3:どちらでもない 2:あまり当てはまらない 1:まったく当てはまらない、として、平均 $\bar{x}$ が $5 \geq \bar{x} \geq 4$ のとき「A」、 $4 > \bar{x} \geq 3$ とき「B」、 $3 > \bar{x} \geq 2$ のとき「C」、 $2 > \bar{x} \geq 1$ のとき「D」とした。

※ 達成状況は、教職員・生徒・保護者のアンケート結果に見られるA～Dの出現率をもとに示した。

※ 学校関係者評価委員会による評価は、A：十分に適切、B：適切、C：やや不適切、D、不適切の基準で示した。

学校関係者評価委員会による意見

○子どもたちが「白石中学校での生活は楽しく、充実している」と思っていることは、行事の充実以外にも教職員の日頃の関わり方が良いと考えることができる。今後も先生方と子どもたちとのコミュニケーションが増えていくことを期待している。

○中1ギャップ解消に向けた小中連携も継続して進めていくことを期待している。